

兵庫県こころのケアセンター 平成23年度実施分に係る
外部評価委員会 業績評価（個別事業評価）

評価対象事業	評価	所 見
研修事業	S	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度の外部評価委員会の意見を取り入れ、受講者ニーズの把握や実施時期等に関する工夫などにより、開催回数、受講者数とも目標を上回るとともに、受講者からも高い評価を得ており、事業として優れた成果をあげている。 ・また、東日本大震災後のこころのケアに関する関心の高まりもあり、受講者の39.6%が県外からの参加者（1都1道2府38県）というデータが示すように県外における認知度を高めている点も評価できる。 ・その一方で、予算や人員の制約等により、受講希望者（申込者）のうち4名に1名は受講できなかったという点については、改善の余地がある。
情報の収集 発信・普及 啓発事業	S	<ul style="list-style-type: none"> ・この事業では、HPの果たす役割が非常に重要であり、特に東日本大震災後、「サイコロジカル・ファーストエイド実施の手引き第2版」や「サイコロジカル・リカバリー・スキル実施の手引き」などへのアクセス件数が急増したことをみれば、これらがダウンロードされ、被災地支援活動のために多くの人たちに活用されたと考えられ、貴重な社会貢献を果たしたといえる。 ・シンポジウムでは東日本大震災による被災地での支援に関して、これまで蓄積された支援の経験を整理する場となり、「有意義であった」と答える参加者が多かったことから効果的な啓発活動であったと考えられる。 ・HPの内容の充実や時期をとらえたテーマ設定によるシンポジウムの開催などを今後も継続し、更なる情報の発信・広報の拡充を期待したい。
連携・交流 事業	S	<ul style="list-style-type: none"> ・東日本大震災をはじめ国内外の地震等の災害に際して、支援チームの派遣やコンサルテーション等の活動を精力的かつ継続的に行っていることは高く評価できる。 ・また、「こころのケア」に関連した研究機関による協議会の開催、「こころのケア」に関連した研修機関による連絡協議会の開催、各種協議会への参画も計画通り実施している。 ・災害や事件の国内での広域化と国外でのグローバル化は急速に進む中、限られた人員、予算のもとで効率的、効果的な支援が行うようにするためには、何処でどのように支援するかという基準づくりやコラボレーションあるいはコンサルテーションのモデルを作ることとともに、派遣場所の選定の際の事前調査の実施などが課題といえる。
相談事業	A	<ul style="list-style-type: none"> ・相談実績については、相談件数は1,200件（前年比71.9%）と減少したが、来所相談は181件（前年比105.8%）と増加している。また、相談内容に関して、トラウマ・PTSD関連の相談が61.9%（前年度55.1%）と増加していることから、設置目的に合った利用が増えている点は評価できる。 ・多くの機関でこころのケアに関する相談窓口が充実されてきたことやセンターの体制面での制約等を鑑みると、センターではトラウマ・PTSDに特化した専門的な支援をより強化していくことが必要である。 ・一方で、土曜日開館をアピールした広報活動の努力を継続するとともに、専門的な支援を評価する新たな指標の導入なども検討すべきである。

<p>附属診療所の運営</p>	<p>A</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・初診者数が減少（前年比:57.4%）しているものの、再診者数は増加し、延べ診療件数は前年度とほぼ同数であることや、トラウマ・PTSDの専門機関として、アセスメントからPE療法（長時間曝露療法）やEMDR（眼球運動による脱感作と再処理）などの高度な専門的治療まで行い、専門的で重要な役割を果たしていることから評価できる。 ・しかし、東日本大震災をはじめとする被災地支援活動が増加する中での診療時間の確保、専門的治療の更なる充実の必要性、職員の加重負担の軽減などを図るため、人員や予算面での拡充を図ることが望ましいと思われる。 ・また、紹介元の医療機関やセンター内のスタッフ間での更なる連携の強化、土曜日開館をアピールした広報活動の継続なども今後の課題である。
<p>ヒューマンケアアカレージ事業（音楽療法士養成講座）</p>	<p>A</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・兵庫県と当センターが協働により、音楽療法士の養成と認定及び音楽療法の新規導入施設の開拓を行っていることは大変評価できる。また、基礎講座、専門講座ともほぼ定員を上回り、音楽療法士補新規認定者数も目標数（20名）を達成している。さらに、音楽療法講演会・実践活動発表会を開催して、普及を図るとともに、現任研修会を開催し、資質向上への教育的支援を行っている。 ・講習を受けた方、音楽療法士の認定を受けた方が、その後、実際にどのような職種に就くことができたのかを把握し、社会的な見地から貢献度を長期的に判断する必要がある。さらに、音楽療法のニーズと実践の状況を把握し、資格取得後の活用について広報すれば、資格の認知度を高めることにつながると思われる。
<p>ヒューマンケアアカレージ事業（実践普及講座）</p>	<p>A</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ターミナルケア講座等の3講座を開催し、いずれも定員を上回る受講者数を確保し、受講者からも高い評価を得るなど、高く評価できる。高齢化が進む中、今後も関心が高い分野であると思われるので、講座のさらなる内容の充実を望む。 ・ただし、講座の内容については、社会的に有用性などに常に留意して見直しを行うとともに、事業の目的にあるように、家庭・地域・施設において「ヒューマンケア」理念の普及・啓発と実践を行う人材の養成であり、それがどのように実現しているのかフォローアップ調査を実施する必要があると思われる。
<p>センター業務運営の効率化</p>	<p>A</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・診療所の受診者数、ストレスドック検診者数は目標値をやや下回ったが、宿泊室の利用者数は目標を上回った。結果的に、収支差額において613,936円の余剰金が生じたことは、利用者拡大への取り組みと効率的な運営、経費削減の努力の成果とみなされる。また、業績評価の実施および職員の研修会への参加について、計画通り実施しており、全体として目標を達成できたと評価できる。 ・一方、センターは、高度な専門性に基づき展開される社会的価値が極めて大きいものであることから、収益性や効率性に囚われすぎる必要はない。医療が、複雑化・重症化・長期化している現状を考えると、収益性や効率性に加えてスタッフ自らのメンタルヘルス面も注意しながら、安定的な運営のあり方を再検討しなければならないように思われる。

(評価基準)

S：年度計画を大きく上回り、中期計画を十分達し得る優れた業績を上げている。

A：年度計画どおり、中期計画を十分達し得る可能性が高い。

B：年度計画どおりと言えない面もあるが、工夫もしくは努力によって中期計画を達成し得る。

F：年度計画を大きく下回っている、又は中期計画を達成し得ない可能性が高い。